

平診九条の会 かべしんぶん

5月29日、平診九条の会運営委員会を9名の参加で開催しました。「戦争体験を聞く」16回目は看護師の秋山直香さんが発表。ミニ学習のテーマは、いま北朝鮮のミサイル発射やアメリカのトランプ大統領の発言や行動に関して「どうすれば戦争を阻止することができるのか？」です。浜井卓太事務主任が講師を務め、全員が一言発言を行い討論を行いました。

●過去の出来事に対して、正しい歴史観をもつことが大切。話題になっているニュースを振り返ってみると流れもわかってくる。

●その時にパッと見てマスコミが言うのをただ鵜呑みにしてしまうことではなく、事象を時系列で見っていくのは大切。違った意味合いで見ることが出来る。今回のことを考えると「人間の欲」が前面に出ると争いになっていくことがあると思った。

●北朝鮮とアメリカは瀬戸際外交だ。トランプ大統領は北朝鮮に対し何か起こしたら「ボコボコ」にしたいと思っている。日本も危機を煽っている状況。北朝鮮からミサイル等発射があれば北海道ではJアラートで通知を出している。「戦争はだめ」と声をあげていくことが大切だし、国会では絶対に無視できない。

●今朝ニュースで速報が出た時に、これまで考えられなかったことがひょっとしたら起こるのではないかと

危機感を持った。国民投票の話が出てくるなど憲法改正の危機も現実味を帯びてきている。

●こんなにもたくさんの事象があり、話が大きすぎてよくわからない実感がある。「戦争反対」の行動が身近で行っていてもその声が本場に届くのか？

●TVで韓国の状況を放映しており、韓国民は「北朝鮮はいつもあんなのだ」と余り現実的になっていない人が多い。争いは何で起きるのか？安倍首相は相手の国まで奪って何が欲しいのか？「戦争はしたい」ということは見えてくるが「何で戦争をしたいのか？」ということがわからない。

●原水禁世界大会でも「戦争は絶対反対」との声を聞いてきた。世の中が「譲り合う気持ち」をもたなければならぬ。そうではない人は今の世界では受け入れられないのではないか？



ミニ学習「北朝鮮のミサイルや米トランプ大統領を見てみると戦争が起きそう?! どうすれば戦争は阻止できるのか？」

講師：浜井 卓太事務主任 *資料の要約



北朝鮮によるミサイルの発射という事態を引き起こしているが、ここで、「どうすれば戦争は阻止されるのか？」について自分なりに考えてみた。

互いに自国を守るために牽制し合う事から生じていると感じた今回の一連の流れで、やはり「人間の欲」からスタートしたと私は思う。それは人類が歩んできた争いの歴史の中でやはり「侵略」というキーワードが大きく関わっていると感じる

からである。なぜ人類が侵略という行為をこれまで行ってきたのか。「相手の持っているもの(資源・技術など)が欲しい」

「自分の支配領域を増やしたい」「より多くの労働者(奴隷?)が必要だ」など様々な人間の欲により争いが生まれ、それを防ぐための技術も同時に発達していったと思う。また、「侵略」は自衛の技術と同時に「悲しみ」や「怒り」という感情を多くの人間に与えることも忘れてはならない。「過剰な自衛をしなればよい」という簡単な一言が現在の人類で出来ていないのは、「人間が無尽蔵に膨れ上がる自分の欲を制御できない」という事と「許すことが出来ない過去の出来事がある」という2つが大きな要素であると感じている。とても難しい問題であり、すぐに解決できる問題ではない。

しかし、戦争を阻止するためには「互いに歩み寄り、互いの考えを理解し、互いを許す」という事が出来る世の中が実現させる必要があると思う。その為には正しい歴史的な知識を持ち、自らの過ちを認められる心を持たなければいけないと思う。その為に子供への「教育」という分野はとても重要な要素である。誤った知識を身につけ、自分の欲求だけを優先させるような教育を行ってはいつまでたっても争いを生む世代が続いてしまう。また、今の大人は何が正しい情報なのかをしっかりと自分の中で精査し、今までの自分の知識と違っている事が真実であった時に、しっかりと受け入れる覚悟を持っていかなければいけないし、子供にその姿を手本として見せていかなければいけないと考える。

戦争体験を聞く 第16回

83歳のF・Kさん（男性）から看護師の秋山直香さんが聞き取り発表しました。（報告の要約）



国民平和大行進お迎え

5月14日に野花南駅までの10キロを走りました。スーパー前で宣伝署名行動も！

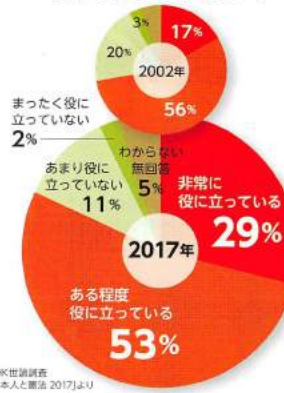


●北朝鮮のこともあり、戦争が現実起こることが不可避でないかもしれない気持ちと「何で戦争に踏み切れないのでは？」ということも思う。トランプ大統領はいつでも核のボタンを押すことができるが、そうしてないのは「戦争をしないでほしい」という国内国際世論があるから。北朝鮮の問題ではG7サミットで「話し合いにつけ」というテールプがある一方「北朝鮮には圧力だ」と安倍首相は言った。第2次世界大戦前に「戦争は避けてほしい」といいながらも戦争を止める力がなかった。今は細々かもしれないが、世界中の戦争反対の世論が働いている。共謀罪が通ると今現在の北朝鮮には戦争に反対する世論がないと同時に日本もそのようになってしまう危機がある。そうした面できわどいぎりぎりの所にいる。

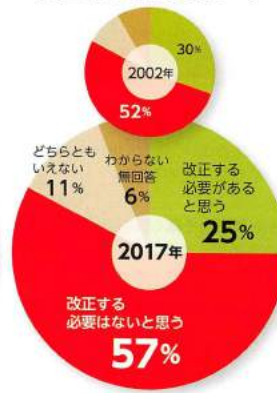
昭和8年に横浜で生まれ、戦争が始まったのは6歳くらいだった。親と7人の兄弟と北海道へ避難するも、函館へ向かう途中で空襲にあった。隅田川にたくさん人間（死体）が流れてきていたことを今でも夢に見るくらい覚えている。中には子供もいて本当にかわいそうだった。到着した函館も空爆でやられていた。缶詰工場が狙われており、焼けて焦げた缶詰の中からまだ食べられそうなものを探して食べていた。食糧難に苦しんだが、あの頃は協力があってみんな分け合っていた。父は岩見沢の開拓団に入り、竹やぶを切り開いて畑にし、母は横浜の家を売ったお金で着物を買い古着屋をして米をもらっていた。また札幌に道議会議員の叔父がいて、お米をお金に換えてもらっていたが、札幌までの道中で警察に見つかると闇米として没収されてしまうこともあった。その頃は1日2食、馬に食べさせるような燕麦（えんぱく）や高粱（コウリヤン）などを食べていた。子供たちを食べさせるのに親は本当に大変だったと思う。終戦は15、16歳でそのころは高等科を卒業し、郵便局に入局した。お給料のほとんどは家に入れ、ほかの兄弟もみんな奉公に出ている。【安倍首相が戦争できる国づくりを進めていることについて】戦争は残虐でもう嫌だ。今孫が戦争に行くようになったら、耐えられず「きちがい」になるんじゃないか。戦争は見た人、聞いた人じゃなければわからないから。今の50代後半のひと（安倍首相は60代）はわからないんじゃないかな。

圧倒的多数が、憲法9条の役割を評価！国民の願いは、平和といのと人権を保障する政治の実現！

憲法9条は日本の平和と安全にどの程度役に立っているか？



憲法9条の改正は必要か？



平診9条の会運営委員会は

6月26日(月) 17時15分

- ①戦争体験を聞く（17回目）
 - ②ミニ学習「安倍首相の改憲発言を考える」
- 講師：高橋司主任